

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

紛争・災害  
Disasters

東日本大震災被災者支援事業の10年余りの経験と出会った人々とのネットワークを生かして、2023年11月に紛争・災害時緊急支援事業がスタートしました。この事業は紛争や災害によって脅かされる女性と子どもの人権を守ることを目的としています。

# “紛争・災害で私たちができること”

東京YWCAは、女性と子どもにフォーカスして事業を実施するボランティア団体です。紛争・災害のエキスパートでも専門家集団でもない私たちができることは何か。東日本大震災支援事業を通して、それがわかってきたように思います。

## 福島的女性たちとの出会い

東日本大震災では、主に福島でお茶会や子育て支援、転地保養プログラムを通して女性たちと出会い、その時々思いや生活の状況を伺ってきました。津波被害で生活が一変したこと、放射能に対する感じ方で家でも地域でも孤立感を抱いていること、子どもの健康への影響に対する不安など、地域や近い人にも話せないでいることを感じてきました。

専門家ではない私たちができることは、時々伺ったことを心に留め、一人ひとりを思いながら被災地の状況を東京に伝えること、3年目、5年目、10年目と支援団体が次々撤退しても、「もうだじょうぶ」と言われるまで終わりにしないこと、終わりを決めるのは私たちではないということが、東日本大震災での支援事業を通して分かったように思います。

## ウクライナを支援する隣国ポーランド

2022年2月24日のロシアによるウクライナへの軍事侵攻から3年が経とうとしています。昨年7月、ポーランドにウクライナから避難した子どもや女性を受け止め支援しているサンスター日本語学

校からの、ウクライナの学生と日本の学生のオンライン交流会のリクエストがありました。大規模爆撃で計画停電となり、いつ電気が切れるか、警報でシェルターに入らなければならないかわからないような状況で、ウクライナ学生12人、日本の学生7人が1時間半あまり交流しました。そこで言われたことは、「ウクライナを忘れないでほしい」ということでした。日本では、日々ウクライナの戦況が報道されています。しかし、忘れられてしまうのではないかと現地では切実に感じていることが伝わってきました。私たちがしなければいけないのは、「忘れていません」ということを、ウクライナの人々と現地で支援する人々に伝えることだと思っています。

## ウクライナ難民の子どもたちinポーランド「小さき画家たちの展覧会」より

詳しくは2面へ▶



### 戦争

「私はとても夢見がちだけど、世界について考え込んでいたりするの。だから本ばかり読んでいるのよ。私は自分自身を大人だって思う時もあるのよ…」  
ヴァルヴァラ・ヴィシニェフスカさん  
(9歳、キーウ出身)

### ふるさとでの一番の思い出

「私は友達とこんな絵を描いては街角で行き交う人々に手渡したことがあります。もらった人々は笑顔でお礼を言ってくれました。私のふるさととはとても楽しい街でした。」

ロクソラニヤ・フィグラクさん(10歳、ハルキウ出身)



### はてしないひまわり畑

「戦争が始まって、世界の色は一気に灰色っぽく変わった。それでも世界はまだカラフルだと信じたからこの絵を描いた。僕の国で戦争が起こっていることは悲しいけれど、ママとパパは、すぐに終わるさ、大丈夫だよ、って言い続けているんだ。僕はそれを信じてる。だって……大人って嘘をつかないんでしょ？」 アルテン・オニシチェンコさん(13歳、ポルタヴァ出身)



## 顔の見える関係づくり

### 被災地支援は被災地の団体との連携が重要

東京YWCAは、キリスト教団体とはネットワークがありました。東日本大震災まで、災害関係のネットワークはもっていませんでした。2011年5月から福島県新地町災害ボランティアセンターのスタッフ派遣を通して震災支援団体や社会福祉協議会とのつながりができました。都内避難者への支援を模索していたとき、避難している人と都内支援者団体でつくる会議体から声をかけられました。この会

議に入り、継続的にプログラムを協働することで、他団体もつ強みと東京YWCAがとる役割、また、団体同士の互いのリーダーシップがわかってきました。東京に大規模災害が起きたとき、どういう支援ができるか。災害支援は単体ではできません。仲間が必要です。つながる人が具体的に思い浮かぶ、顔の見える関係が重要で、東京YWCAも声をかけられる、期待にこたえられる存在でありたいです。



ボランティアが物品寄付を発送しました

2024年1月の能登半島地震では、急ぎよ企業から物品寄付の申し出がありました。関係先にあたり珠洲市に送りました。

## 国際的なネットワークを生かして

### 何かしたいという個人の気持ちを集め力に代えて支援につなぎたい

ウクライナへの軍事侵攻直後、募金活動はしないの？ という問い合わせがありました。そのときウクライナが必要としていたのは武器でした。募金は、何に使われるかが重要で、まず現地

を支援する信頼できる団体を見つけなければなりません。それは日本YWCA、世界YWCAの得意分野です。現地からの継続的な報告は、第2次、3次の募金活動にもつながっています。

### ウクライナの子どもたちを忘れないために (1面から)

ポーランドに避難したウクライナの子どもたちがアートセラピーで描いた絵の展覧会を昨年10月から11月に実施しました。絵を所有するサンスター日本語学校と東京YWCAは、戦争終結まで展覧会を続けたいと考えています。今年全国のYWCAが展示を検討しています。



絵画40点。子どもたちの行方は不明です



◀ 展覧会  
公式サイト

巡回予定 ▶  
(東京YWCA)



全盲のピアニスト大月裕夫さんが演奏

### ウクライナ/パレスチナ支援チャリティーコンサート

ウクライナYWCAはロシアの軍事侵攻直後から、またパレスチナYWCAは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)設立以前から女性と子どもの支援をしています。この2つのYWCAを資金面で支援するために、チャリティーピアノリサイタルを10月12日に行いました。最後の「キーウの大門」では、立ち上がって拍手する人もいました。一刻も早い戦争の終結を願い85人が集いました。

### ウクライナと日本の学生がオンラインで

8月31日と9月7日に実施しました。交流会は意図して普通的话题を取り上げました。戦争前夜のウクライナは空前の日本ブームで、日本のアニメや食文化などで話はすぐに盛り上がりました。キーウのほかドニプロやハルキウ、避難先からの参加もありました。最後に「あなたの夢は何ですか」という問いをウクライナの学生に答えてもらいました。

私の夢は、漫画家になること。漫画家になって一人でも多くの心を癒したい。

キーウ在住、17歳女性

どう言葉で表したらいいかわからないけれど、ぼくらの日常がウクライナの人々の日常になってほしいと思った。

東京在住、大学生男性

オンライン交流会の発言より

### この取り組みに関するお問い合わせ先

紛争・災害時  
緊急支援事業

☎ 03-3293-5436 ✉ [kaiin@tokyo.ywca.or.jp](mailto:kaiin@tokyo.ywca.or.jp)  
🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/peace/disasters/>



## 外国にルーツのある 子どものサマーキャンプ

### 新しい体験を届けたい 言葉や文化の交わりの中で

2024年8月23日から25日、東京YMCA山中湖センターで、日本語を母語としない親を持つ小中学生を対象に東京YMCAと東京YWCAが合同で行いました。東京YWCAの日本語・学習支援「いちごの部屋」で学ぶ子どもたちも参加しました。普段は日本社会の中でマイノリティであると感じることが多い子どもたちが集まって、安心して新しい体験を重ねられるようにと企画しました。1つの体験を共有することで、言葉を越えて楽しさや感動の共有があり、子どもたちの伝えたい、挑戦したいという気持ちが様々な場面で見られました。夏休み後の「いちごの部屋」で、楽しかった様子を何度もボランティアに話す子どもの姿に、こうした体験の積み重ねが日常生活へのエネルギーや励みになっていくと実感しています。



山中湖をピックカヌーで遊覧。みんなと一緒に声を掛け合って



講師は尾崎礼子さん（北ケンタッキー大学准教授）が務めました

## DV被害者の支援者を トレーニングする人の講座

### トレーナー養成講座を開催 全国から11人が集まる

東京YWCAが行っているDV被害者を支援する支援者対象の「支援者トレーニング」は、アメリカのオハイオ州で開発された研修がベースとなっています。その開発に携わった尾崎礼子さんを7年ぶりに招いて、「支援者トレーニング」の講師を務めるトレーナーを養成するために、10月25日から27日に計17時間の「トレーナー養成講座」を実施しました。講座ではDVの基礎から模擬トレーニング実施まででトレーナーとして必要な知識と技能を体系的に学ぶことが出来ました。受講者のアンケートからは「講座を受け元気をもらいトレーナーとして活躍してみたい気持ちになった」「講座をきっちりプログラムすることが大切であると同時に、臨機応変に対応できることや参加者とコミュニケーションをとることも、重要であることを学んだ」という感想がありました。

## 第41回憲法カフェ 映画「ベアテの贈りもの」

### 参加者と共に男女平等参画に ついて考える機会となりました

「ベアテの贈り物」の上映会を9月14日カフマンホールで行いました。映画は2004年に公開され、日本国憲法 第14条「法の下での平等」と第24条「家庭生活における両性の平等」を草案したベアテ・シロタ・ゴードンさんの半生を追ったドキュメンタリーです。東京YWCAから昨年CSW(国連女性の地位委員会)に派遣された臼杵ふたばさんの発案で、女性労働協会からDVDを借りて実施しました。当日は多様な年代の方が参加しました。参加者からは、「権利のために闘ってきた女性たちの活動に胸が熱くなった」、「憲法とジェンダーが関わっていることを学ぶとても貴重な機会となった」との声が寄せられました。



(左)「ベアテの贈りもの」公式サイトより  
(下)参加者の様子



# Event 東京YWCAのイベントをご紹介します。皆様ぜひご参加ください。



## 2025 野尻キャンプ

📍 東京YWCA野尻キャンプ場 (長野県野尻湖畔)

申込: 6月初旬より申込開始! 詳細はホームページで

長野県野尻湖畔にある自然豊かなキャンプ場で小学生から高校生を対象としたキャンプを開催します。特に、中高生ガールズキャンプは、東京YWCA野尻キャンプの中で最も歴史のある女子だけのプログラムです。自分たちだけのプライベート空間で「キャンプって楽しい!」を存分に味わうことができます。今シーズンも8月に開催。詳細はホームページをご覧ください。



かっこいいアーチェリーは子どもたちに大人気です

## 国連人権理事会「国内避難民の人権特別報告者」報告書の意味

📅 3/29(土)午後 📍 東京YWCA会館カフマンホール

福島第一原子力発電所の事故で避難した人びとを、国連人権理事会は「国内避難民」と位置付け、複数の勧告を日本政府に発出しました。政府はフォローアップに同意していますが、混乱のさなかで果たして人権は守られたのか? 専門家とともに考えます。

## 「留学生の母親」運動 説明会

📅 2月から5月毎月開催 📍 東京YWCA会館

日本で学ぶ留学生とお母さん(会員)との1対1の「組み合わせ」による家庭交流、グループで留学生と日本語で話す談話室、日本語個別支援が主な活動です。それ以外の活動や会員へのサポート体制、入会手続きについて説明します。(詳細はHPにて)

## ご寄付のお礼とお願い 皆様のご支援により支えられています

いつも東京YWCAをご支援いただき、ありがとうございます。2024年度は、寄付目標額615万円のところ、11月末現在で490万723円を頂戴しております。いただいたご寄付は、それぞれの事業

のために大切に用いさせていただきます。今年度も残すところあとわずかですが、事業の安定的な運営のために、寄付目標額達成に向け引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

### ご寄付募集中



#### 紛争・災害対応

ウクライナの子どものための絵画を全国で巡回展示するための運営費や、被災地への物資輸送に係る費用のために用いさせていただきます。



#### 日本語・学習支援 「いちごの部屋」

外国ルーツの子どもが、日頃の学習に加え、体験の中で日本語を身近に感じながら楽しく学べるよう、様々なプログラムのために使わせていただきます。



#### 「支援者エンパワメント プログラム」

DV被害者を支援する人のためのスキルアップ研修、「支援者トレーニング」のために用います。支援者が学びを深め、より良い支援ができるようになります。

### ご寄付・ボランティアのお問い合わせ先

財団管理部企画課 TEL: 03-3293-5436 Email: kaiin@tokyo.ywca.or.jp

#### 銀行振込

お振り込み情報の確認のため、必ず寄付申込書をお送りください。  
・ゆうちょ銀行(口座番号: 10120 44516671)  
・三菱UFJ銀行 神保町支店(口座番号: 普通預金 1924322)  
・みずほ銀行 九段支店(口座番号: 普通預金 583583)  
いずれも口座名義: 公益財団法人東京YWCA

#### 郵便振替

郵便局備え付けの払込用紙の通信欄に「寄付」とご記入ください。  
・口座番号: 00100-8-44681 加入者名: 公益財団法人東京YWCA

#### 毎月の寄付

毎月決まった金額を継続してご寄付いただく「毎月の寄付」を始めました。詳細はQRコードからご覧ください。

●公益財団法人東京YWCAへのご寄付及び賛助会費は、寄附金控除の対象となります。制度の詳細は国税庁ホームページをご覧ください。

「毎月の寄付」  
始めました!



#### ボランティア募集



関心がある方はぜひお問い合わせください。



公益財団法人東京YWCA  
<https://www.tokyo.ywca.or.jp>

#### 東京YWCA会館

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11  
TEL: 03-3293-5421(代表) FAX: 03-3293-5570  
Email: office@tokyo.ywca.or.jp

・東京YWCA板橋センター  
・東京YWCA国領センター  
・東京YWCA武蔵野センター  
・東京YWCA野尻キャンプ場

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー /Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。